

会 議 記 録 (概要)

会 議 名	令和4年度第1回三田市生涯学習審議会
日 時	令和4年11月17日(木) 18時00分から19時30分
場 所	まちづくり協働センター講座室
出 席 者	田中会長、馬込副会長、藤田委員、尾上委員、門垣委員、加藤委員、喜多委員、吉川委員
事務局等	(地域共創部) 甲斐部長(市民協働室) 横溝参事 (文化スポーツ課) 嘉土課長、堀係長、上野
添付資料	レジュメ
傍 聴 者	0名

会議概要

1 開会

- ・傍聴報告：傍聴者なし

2 実践報告

①生涯学習カレッジについて(いきいき高齢者支援課)

会 長：三田市の生涯学習の基本的ベクトルは、「人づくり」と「地域づくり」であり、最終的に、成熟した「まちづくり」へと繋げていこうとするものである。生涯学習においては、個人の学びや楽しみだけで完結するのではなく、社会的な意義を考え、市民力の向上に寄与しなければならない。

委 員：入学者数や受講者数は増えたのだろうか。

担当課：以前は、学年が大学院まであったが、見直しを行い、カリキュラムを大学までに集約したため、学生数は当時よりも減少している。現在は新型コロナウイルス感染症の影響もあってか、各学年ともに定員数120名に対し、学生数は100人を下回っている。感染症も徐々に落ち着きを見せているため、今後さらなるカリキュラムの充実を図り、受講者数を伸ばしていきたい。

委 員：自分は神戸市のシルバーカレッジで講師を務めているが、講座等の受講者数はかなりの減少傾向にある。三田市は人口比から考えるとかなり健闘しているように感じる。

会 長：定員確保だけに執着せず、生涯学習の質を高めることが大切である。

委 員：発表を聞いて自分自身も「生きがい」を見出して、新しいことにチャレンジする姿勢を持ちたいと思えた。

会 長：担当者の感覚的には、生涯学習カレッジは広く市民に認知されているように感じるか。

担当課：例年、一定数の入学者がいらっしゃるため、卒業された方が口コミ等で広めてくださっており、少しずつではあるが市民の方への認知は進んでいるように感じる。

委 員：学費や受講料の個人負担はどのように設定されているか。

委 員：受講料は、年間6講座で3,000円を徴収している。入学金は徴収していない。

副会長：コロナ禍においても学生数は多く、カリキュラムも充実していることは素晴らしいが、その成果や目標の達成状況を発表したり、市に報告できていない点は残念である。

担当課：今後、卒業生を対象にアンケート等で、その後の活動や変化について情報収集し、成果を数値化していきたいと考える。

会長：事業展開としては、実践の成果をまとめ、把握し、それを公に発表したほうが望ましいだろう。

委員：兵庫県では、防災に関する実践知をもった人々や防災士の方が大勢いらっしゃるため、防災に関する講座をもってほしい。きっとそれぞれの地域や受講生にとって心強いものになると考える。

②こうみん未来塾について（健やか育成課）

会長：最近の学習指導要領では、「遊戯的な学習」や「探求」、小学校低学年の「知的な好奇心」といった言葉がキーワードであるが、それらに沿ったプログラムが十分に組み立てられており、非常に成熟した生涯学習事業であると感じた。

委員：社会で大人たちのしている仕事内容を、子どもたちが学んでいる様子は非常に有意義なものであり、これからも益々事業の発展に期待したいと感じた。

委員：自分の生徒たちが、どの程度こうみん未来塾に参加しているかは十分に把握できていないが、学校以外で、このような子どもたちの知的な好奇心をくすぐるような素晴らしい取り組みがあることを知り、子どもたちに広く周知しなければと感じた。講座数と参加者数の推移を見れば、子どもたちにとって魅力的な事業展開が実施できていることがよく理解できる。

会長：講師の方を市内の各学校に派遣すれば、三田市の学校教育の風土はより社会教育と連携のとれた素晴らしいものになり、全国に向けて発信できる。

担当課：今年度からは、小学校向けの金融教育や環境教育等のプログラムを組み、市内全ての小学校で実施できているわけではないが、既に22回講座を実施している。

副会長：近年、起業家育成に世間の関心が高まっているため、マネ育コースの中に、アントレプレナー教育の内容を盛り込んだものを実施できれば、将来、三田市から起業家が生まれる大きなきっかけになるかもしれない。

担当課：今年度からはカリキュラムのなかで、「未来デザインコース」を実施しており、コースの中で、それぞれ異なる立場で起業した講師を3人お招きし、子どもたちが起業に関する話をできる機会を設けている。来年度からは、現コースに加え、「キャリア創造コース」を新たに設けようと考えている。

副会長：教える側の人間は、教えること自体が勉強になっており、教えるためにより勉強をする必要があるため、教えること自体が実は学びにつながっている。生徒が次は教える側に立つような仕組みづくりも大切だと考える。

担当課：来年度は、さんだサイエンスフェスティバルの子どもブースを拡大しようと考えており、子どもたちがどんなことに興味を持っているかを知るために、現在アンケートを実施している。結果を集約し、来年度の子どもブースに反映したいと考えている。

副会長：教える側の視点に立った結果、子どもたちにどのような変化が生じたかを調べてみるとおもしろいかもしれない。

委員：プログラムの構成にあたって、意見を聴取するような委員会はあるのか。

担当課：有識者の方々を主な構成員とした、「アドバイザリー会議」を設けているほか、講師同士の会を実施おり、お互いの意見を交換し、それぞれの講座をより良いものしようとしている。

3 今後の予定

・例年12月に開催している教育委員会との意見交換会は、今年は1月下旬から2月上旬頃の開催を予定している。

4 その他

5 閉会